

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200131		
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会		
事業所名	グループホーム まことの家		
所在地	徳島県名西郡石井町高原字桑島558-1		
自己評価作成日	令和 2年 8月 20日	評価結果市町村受理日	石井町

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、吉野川の南岸、石井町の田園地帯が広がる4階建ての4階部分に位置し、町内の景色が一望でき山々が眺められる。広いベランダでは家庭菜園や季節の花々を育て季節感を感じられる。認知症予防の為、各種体操(柔軟・ラジオ・肩甲骨等)をはじめ回想法、食事の前には口腔ケア体操・舌運動で誤嚥防止に取り組んでいる。日々の生活では、テーブルを拭いたり洗濯物をたたんだりと自宅で過ごしていた時と同様に互いに出来る事を行い、助け合いながら和気あいあいと過ごして頂いている。また、健康面においては、介護・看護・医療・関連施設のスタッフと連携をとり、緊急時に備え確立している。防災面においても地元消防団、地域住民、消防署の協力を得ながら災害時に備えた体制作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、独自の理念にもとづいて、利用者一人ひとりを主役と捉えた支援に取り組んでいる。日ごろの利用者との会話の中で、利用者の好みや生活歴等を聞きとり、本人の喜びや生きがいに繋げることを心掛けている。地域とのつながりも大切に捉え、事業所自身が自治会に加入することで、地域清掃や老人クラブ等との交流など、地域との協力体制や関係性の構築に努めている。年3回実施する防災訓練においても、地域からの参加協力を得て、消火訓練や避難経路の確認等を行っている。新型コロナウイルス感染症の流行にともない、支援や活動等が制限されるなかでも、通院の帰りに、利用者にとって馴染みのある場所へドライブしたり、散歩の際に近隣住民と挨拶を交わしたりして、利用者の楽しみや地域との関係継続などに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念や社会的役割を明確に認識して掲げている。事業所内に掲示しており、全職員で理念を共有している。		事業所では、法人理念をもとにした、事業所独自の3つの理念を掲げている。理念を事業所内に掲示したり、勉強会で立ち返ったりして、職員間での共有化を図っている。また、職員会議等でも、理念について再度検討することで、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入して地域の祭りや用水・道路掃除に参加して交流を図っている。防災訓練を始め幼稚園や老人クラブの訪問が十数年続いていたが本年度はコロナ禍で感染防止の為、交流は実施していない。		事業所は、地域の一員として自治会に加入し、年2回の用水掃除や地域の祭りに参加するなどして、日常的に交流している。感染症(コロナ等)の流行下においても、近隣住民から野菜の差入れを受けたり、回覧板をまわす際に挨拶したりして、交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成への貢献として実習生や他の事業所からの研修生も受け入れていたが、本年度はコロナ禍の為地域への働きかけは出来ていない。		/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、サービスの利用状況や現況報告に留まらず外部評価の取り組み等についても報告している。会議メンバーから率直な意見や提案を頂いており、職員会議等の機会に話し合っ事業所運営に活かしていたが、本年度はコロナ禍の為、書面や電話で個別に意見を頂いている。		2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、現況報告のほか、各委員のニーズにあわせた勉強会も実施している。感染症の流行下においては、書面会議を行い、資料を手渡することで、意見等を聴取している。出された意見は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者と電話やFAXで連絡をとっており、課題等が発生した際には、訪問等をして説明を行い協力関係を築くようにしている。		管理者は、日ごろから、町の担当者へ、電話やファックス等により、事業所の状況を伝えている。感染症の流行下においても、会議の開催方法や設備に関する相談等を行い、助言を得るなど、随時、相談できる関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害等を理解し拘束のないケアを実践している。また、研修会は年2回、委員会も3ヶ月に1回以上の開催している。また、再確認し拘束のないケア実践に積極的に取り組んでいる。		事業所では、定期的に、身体拘束に関する研修や委員会を開催し、拘束の内容や弊害等について、職員間での周知・徹底を図っている。事業所内は、ユニット間だけでなく、併設の他サービス事業所にも自由に行き来できるなど、利用者の自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修会を年に2回開催、委員会も定期的に実施し職員一人で抱え込まないように随時話し合いの機会も設けている。また、虐待に繋がる不適切なケアが見逃ごされることがないように努めている。		/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者が以前おり、その時に個々の必要としている支援を関係機関に結びつけ活用できるようにして、必要な制度は家族へも周知している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族共に納得するように時間をかけて説明している。個々に意見を聞くようにしている。家族の意見をもとにサービス向上に努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のケアの中においても、利用者の希望や思いの把握に努め、利用者主体の支援につなげている。また、お便りを発行したり日常生活便りとして利用者の暮らしぶり等も伝えている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や希望等を聞き取っている。家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに努めている。感染症の流行下においては、電話やお便り等を通じて家族と連絡を取り、意見等を得よう努めている。出された意見等は、運営面に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の気付きを申し送りノートに記載し、職員間で話し合っている。全体で言いにくい意見については、個別で話し合えるようにしている。また、個人面談も実施しており、個々の意見も聞き、運営に反映させている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員の意見や提案等を聞き取っている。年2回、個別面談も実施し、職員一人ひとりの得意分野を把握し、引き出すよう心掛けている。出された意見等は、職員間で話しあい、運営面に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意分野を活かし、自信を持って取り組んで貰うことで意欲向上を図っている。また、資格取得に向けた支援が出来るように労働環境の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力や経験に応じた研修の受講を奨励し、スキルアップを図っているが、本年度は、外部研修等を受講する機会がなかった。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や外部研修に積極的に参加し、他事業所の職員と顔馴染みになることで、お互いが情報交換しケアの質の向上に活かしている。本年度は、相互交流や研修等に参加する機会がなかった。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前から訪問や面談する中で、不安に思っていることや生活状況の把握に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族や担当ケアマネジャー等から在宅でのことを聞き取っている。家族の困っていること入所に至る経緯等にも耳を傾け、家族の思いも受け止めより良い関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入居を促すのではなく本人や家族の要望や状況を把握するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共に生活するうえでお互いに支え合い、助け合える関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりの状況に応じて日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努めている。家族と共に利用者を同じ思いで支え合う関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた関係を断ち切ることなく、家族をはじめ親戚・知人の面会をお願いしているが、コロナ禍の為身元引受人のみの面会となっている。	事業所では、利用者の友人や知人等の来訪時に、ゆっくり話すことができるよう配慮している。感染症等の流行下においては、電話の取次ぎ支援や馴染みの場所を動画等で確認するなど、関係が途切れることのないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室でひとり籠もったり孤立することのないように、職員が利用者相互の関係も考慮し楽しく関わり合えるように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や入院等で退所となった場合でも、必要なサービスの相談や退院後の要望、家族の困りごと等不安にならないように必要に応じて相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。家族への報告時には、最近の状態を伝えると共に本人本位の視点立って最良の暮らし方が出来るように検討している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の思いや意向等の把握に努めている。聞き取った内容は、申し送りノートに記載し、職員間で共有化を図っている。意思の表出が困難な場合は、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や関わりのあった方々からその方の暮らししてきた生活歴を聞き取りを行い、職員に周知プランに取り上げている。入居後も関わっていく中で馴染みの関係を築いていけるように生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活シートを活用して生活状況、排泄等現状の把握に努めている。センター方式を活用しその方の出来ることにも着目して関わるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望や家族の意向、日頃の職員の気付き等を出し合い、その人らしくよく生活出来るように作成している。医師や看護師等の意見も取り入れ、日々の変化や状況にも即して見直しを行っている。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画書を作成している。計画には、協力医療機関の医師や訪問看護師等の意見も反映している。毎月、モニタリングを実施するとともに、本人の心身状況の変化に応じた見直しも行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の食事・水分・バイタル・排泄等日々の状況を記録した日常生活シートや生活日誌、夜勤日誌を活用して職員カンファレンスへとつなげ、情報の共有、実践、介護計画の見直しへと結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かしている。受診や入院の回避早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、家族・病院との連携による終末期の入院の回避に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練や諸行事には、消防団や地域住民、ボランティア団体を把握しており協働体制を築いているが、本年度はコロナ禍の為実施出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に意向を確認している。利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診や通院を支援している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科を受診する際は、職員が付きそい支援を行っている。また、協力医療機関とは、緊急時に24時間対応可能な体制を整備するなど、利用者が適切な医療を受けることができるよう協力関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との契約のもと、健康管理や医療面での相談・助言を受けながら日々のケアを支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	慣れない環境による心身への負担を協力医療機関の医師や看護師に十分配慮してもらっている。可能な限り早く退院出来るようにアプローチし、その後の経過によっては訪問看護を利用する場合もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の文書を作成し利用者・家族の意向を確認しながら同意を得ている。また、訪問看護事業所の協力のもと、終末期にはできる限り家族の希望に添えるように支援している。	事業所は、入所時の段階で、重度化や終末期の方針について、利用者や家族等に説明している。利用者の心身状況に応じて、家族等の意向を踏まえつつ、関係機関と連携し、チームで支援に取り組んでいる。また、希望に応じて、看取り支援も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや過去の事例をもとに対応方法の確認を行ったり応急手当の勉強会に参加し技術向上に努めていたが、コロナ禍の為、勉強会に参加する機会はなかった。訪問看護事業所からは指導をもらったり、急変時のシュミレーションや確認は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、同一建物内の事業所と共に防災訓練を実施している。本年度は、消防署や地元消防団の訪問はなく、当事業所の職員だけで自主訓練を行っている。非常用食材等の備蓄もしており隣接する関連施設と救助要請ができる体制となっている。	年3回、消防署等の協力を得つつ、避難訓練を実施している。火災や地震、水害等を想定し、書類の運び出しや利用者とともに避難するなど、実践的に取り組んでいる。備蓄も約1週間分整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性や特性を共有し、尊厳の中にも親しみを込めて接するようにしている。個々の人格を尊重し、本人が自己決定できるように声かけを行っている。気付いたことは、その都度職員間で確認し合うようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの個性を大切に支援に取り組んでいる。日ごろの支援のなかで、服や飲み物など、自己決定できる場面を設けている。言葉づかいにも配慮しつつ、職員間でも確認しあい、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、思いや希望が表出しやすいように働きかけている。難聴の方には、耳元で話しかけたり筆談等で働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や状態に合わせてどのように過ごしてもらうのがベストか希望に添って支援している。できないところをフォローしさり気なく声掛けを行うようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室でのカットや顔剃り等もしてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、管理栄養士の献立に基づき調理している。旬の食材や行事食取り入れる工夫をしたり、昔懐かしい食材を取り入れている。下膳やテーブル拭き等のできることを協力してくれている。	事業所では、炊飯や味噌汁をつくることで、利用者が香り等を楽しむことができるようにしている。近隣住民から差し入れされた野菜等をメニューに加えることもある。また、利用者の希望を聞きとり、好きなものを反映するなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を把握している。また、お茶の時間を設けており水分補給に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨き等就寝前の口腔内の衛生に努め、その方に応じて職員が見守ったり介助したりしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンの把握に務めており、一人ひとりの自尊心に配慮したうえでトイレへの誘導を行っている。利用者によって、夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。	事業所では、チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報にもとづいて、トイレへの誘導や水分調整を行い、負担なく排泄できるよう取り組んでいる。夜間もポータブルトイレ等を活用し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを活用して一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。歩行訓練や柔軟体操も個別に取り入れたり、乳製品や乳化オリゴ糖等その方に応じて自然排便をできるように取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は毎日実施しているが、その日の体調や気分に合わせて対応している。季節を感じてもらえるように薬草・柚湯などを活用している。無理強いすることなく、本人に寄り添った支援に務めている。	事業所では、週に3回は入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの心身状況にあわせて、入浴支援に取り組んでいる。季節ごとに、ゆず湯やしょうぶ湯を行うことで、入浴を楽しむことができるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに応じて居室で静養したり、昼寝をして負担のないように過ごしている。自宅で使用していた寝具を使用し、馴染みのある環境作りに努めて安心して眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、利用者の処方箋・服薬状況を理解するように徹底している。誤薬や飲み忘れがないように医師から処方された薬は事業所で管理している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意としていることを引き出せるように支援している。生活歴や個々の能力に応じて得意分野を活かせるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きつけの美容室へ出かけたり、家族の集まる法事や行事に参加できる場面や機会を作っていたが、本年度はコロナ禍の為実施出来ていない。	事業所では、家族等の協力を得つつ、行きつけの美容院など、利用者の希望に応じた外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、敷地内のベランダで花や野菜を育てたり、通院の帰りにドライブしたりして、外の雰囲気を感じることができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の協力を得て少額のお金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族や県外にいる親戚等と電話で会話されたり、手紙の返事を書いたり個別支援も行っている。コロナ禍においては、家族の心配も考慮し、普段の生活の様子を写真や動画で送信したりできる限りの配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間で思い思いにゆったりと自宅で寛いで過ごせるような空間作りに務めている。また、ベランダでは、花や家庭菜園も行う季節感や収穫の喜びも味わってもらっている。	共用空間は、明るく清潔に保たれている。利用者の好みの音楽をかけたり、野菜の皮むきや洗濯物畳みを一緒に行ったりして、生活感を感じてもらえるよう取り組んでいる。また、アクリル板の設置や小まめに換気を行うなど、感染症対策にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で集まれるようソファを数カ所に分けて設置している。一人になっても過ごせる空間や気の合う人とも語り合えるような空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの配置等自宅で過ごしていた時に近い家具配置にして、戸惑ったりすることなく過ごせるよう家族と相談しながら環境作りに務めている。また、馴染みの家具を持ち込み居心地良く過ごせる工夫もしている。	居室には、利用者や家族等と相談し、本人の使い慣れた家具や家電などを持ち込んでもらっている。希望に応じて、転倒防止のための突っ張り棒を設置するなど、安全面等にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が扱いやすいように洗濯物干しを調整したり浴槽に台を設置し無理なく入浴ができるようにしている。また、安全に配慮し全フロアバリアフリー構造となっており安心して生活することができる。		